

投資事業評価調書（継続：再々評価）

部課室名	河川整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	河川整備課長 佐々木良作 (主幹兼治水係長 小西克彦)	内線	4408 (4437)
------	-------	---------------------	--------------------------------	----	----------------

事業種目	河川	事業採択年度	S16		現計画	再評価時点
事業名	広域基幹河川改修事業 (一)加古川水系加古川中流工区	着工年度	S16	総事業費	759億円	759億円
		再評価年度	H10	内地補償費	143億円	143億円
事業区間	西脇市板波町～黒田庄町船町 他			完成予定年度	H50	
所在地	西脇市、黒田庄町、中町、加美町、八千代町			進捗率 (内用補進捗率)	30%(62%)	26%(54%)

事業の目的		事業内容				
<p>当該河川では過去から度重なる浸水被害に見舞われており、昭和16年から事業を開始した。無堤部が概ね解消されたが昭和58年9月の台風10号により既往最大の浸水被害が発生した。</p> <p>このため、沿川の再度浸水被害を防止すること及び当該河川の重要性等から、治水安全度1/100の整備を目標とした河川整備を進め、地域住民が安全で安心して生活できる環境を確保する。</p>		<p>計画流量 <math>Q=3,800\text{m}^3/\text{s}</math> (治水安全度1/100：野間川合流点直下)</p> <p>実施内容 <math>L=48,200\text{m}</math> <math>W=175\sim 48\text{m}</math> 築堤、掘削、護岸、道路橋62橋、 鉄道橋2橋、井堰28箇所等</p>				

進捗状況	<p>昭和16年から改修を開始したものの昭和37年、47年、51年等、浸水被害に見舞われており、現在は既往最大である昭和58年9月災害の洪水に対応した治水安全度1/14で整備を進めている。</p> <p>再評価時点(平成10年度)から現在までに治水上のネックとなっている加古川本川の板波橋の架替及び津万井堰の改築により現況流下能力を向上させた。</p> <p>今後は野間川を重点的に改修する予定で、平成20年までに岩井橋(H17)及びJR野間川橋梁(H20)の架替が完了し、加古川合流点からJR野間川橋梁までの現況流下能力を向上させる。その後も下流直轄区間との調整を図りながら改修を進める。</p> <p>また、河川整備計画を現在策定中である。</p>
------	--

評価視点	評価結果の説明
(1)必要性	・ 昭和58年9月の台風10号では浸水面積720ha、浸水家屋数1,291戸の甚大な浸水被害を受けた。西脇市の中心市街地や道路、鉄道、病院等の公共施設の再度被害を防止するために継続的な整備を実施する必要がある。
(2)有効性・効率性	・ $B/C=2.4$ ・ 野間川の(県)岩井橋の架替について、道路管理者と連携して河川整備を実施することにより、効率的な事業執行が可能である。 ・ 現在、河川整備計画策定のための流域懇談会を開催しており、事業に対する地域住民の意識が高い。
(3)環境適合性	・ 当該河川にはレッドデータブック記載種(ヤリナゴ、カネヒラ、アブラハヤ等9種類)が多数生息していることが確認されているため、津万井堰には4種類の魚道を整備し全魚種が遡上できるよう生息環境に配慮した。また、護岸には環境保全型ブロックやかかし護岸等の工法を採用している。
(4)優先性	・ 野間川下流部は市街化区域で西脇市の中心地にも近く、人家が密集しているものの現況流下能力が30%程度と低いため、早期に改修する必要がある。

再々評価の結果	事業継続	左の理由	上記理由により、事業継続が妥当である。
---------	------	------	---------------------